

## 第 2 次木津川市地域公共交通網形成計画策定に関する 交通事業者ヒアリング結果報告

### 1. ヒアリングの概要

- 目的：地域の公共交通の現状や課題、地域の移動を担う交通事業者としての取り組みを把握し、木津川市地域公共交通網形成計画の策定の参考とする。
- 期間：令和元年 8 月下旬～9 月中旬
- 対象：鉄道事業者：西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社  
路線バス事業者：奈良交通株式会社  
コミュニティバス委託事業者：株式会社ウイング、加茂タクシー株式会社、東洋タクシー株式会社

### 2. ヒアリング結果（要約）

#### (1) 運行サービスの充実・維持に向けた課題と対応

##### ■ 鉄道

- ・鉄道の利用者数は、全体としてここ数年横ばい傾向である。
- ・人口減少や高齢化の中で利用が伸びない中、利用が現状維持や減少傾向にある路線は、メンテナンスの省力化・低コスト化（設備のシンプル化等）とオペレーションの低コスト化（人員配置や運行本数の適正化）により、輸送サービスの維持に努めていくことになる。
- ・地域の足として少しでも長く路線を維持していくことが鉄道の役割だと考えている。

##### ■ 路線バス

- ・梅美台では利用が大きく増加しているが、加茂エリアの路線は、梅美台の増加分を加味しても、この 10 年で 10 万人ほど減少しており、採算が確保されておらず、運転手不足問題からも、今の状況を維持していくことは難しい。加茂～木津駅のコミュニティバスが運行され、利用者がシフトするようなことになれば、減便の可能性は高まる。
- ・山田川駅や木津駅ロータリーにおける朝夕のラッシュ時に、一般送迎車がバス専用区間に駐停車することで、バスのスムーズな運行に支障をきたしている。
- ・国道 24 号の渋滞がひどく、バスの運行に支障をきたしている。
- ・木津市役所前の旧 163 号の狭隘区間は、事故も多いので、道路拡幅が望まれる。

##### ■ コミュニティバス

###### ① きのつバス

- ・朝の通勤通学時間帯にも運行しているため、行きはきのつバス、帰りは路線バスという併用利用も多い。

- ・木津川台の住民は精華町内の路線バスを利用する方も多いため、木ー3を延伸し、祝園方面のバス（くるりんバス等）との連携も考えられるのではないかな。

## ②かもバス

- ・利用者が減少している理由は、高齢化により利用する人がいなくなったためである。
- ・通学線という路線名は、一般の人が利用できないように思われているのではないかな。
- ・かもバス用に加茂駅にタクシーを2台待機させており、一般タクシーの予約を断らざるを得ないことも多く、デマンド交通を続けることが難しくなりつつある。
- ・加茂駅東口には商業施設や個人病院などもあるので、かもバスの西口発着路線は、東口まで延長すると利便性が高まる。
- ・デマンドタクシーは、全路線同じ本数ではなく、利用動向に応じて本数を変えたり、利用の多い路線を8時台に運行し、利用の少ない路線を9時台にするなど、ダイヤを見直してはどうか。
- ・デマンドタクシーは、帰りの予約の時間が読めず、行きのみ利用している人が多いため、無定時定路線にすれば、利用がもう少し増えるのではないかな。
- ・観光客の利用が多い。ただし外国人の利用はほぼない。（当尾線）
- ・当尾線は、当尾地域内において、奈良交通の急行バスとの併用利用も多い。（当尾線）

## ④やましろバス

- ・新祝園駅へ延伸すると、運行時間が長くなるため、便数を減らさざるを得ないと考えられる。
- ・主に観光客の利用であり、地元住民の利用は少ない。（神童子線）

## ⑤全般

- ・バスやタクシー業界の乗務員不足の問題は極めて大きく、深刻である。欠員分は、残業で補っている（路線バス）。また、観光バスの受注も制限せざるを得ない状況である。この問題に対し、行政の広報等で運転手募集のPRを行ったり、乗務員不足への対応を網形成計画にうたっている自治体もある。
- ・持続可能な公共交通を形成するためには、限られた財源の中で、効果的な運行を検討するとともに、収入を増加させる施策についても十分に議論すべきである。
- ・路線を維持するためには、定住人口と交流人口の増加に取り組む必要がある。

## (2) 利用環境づくり等に向けた課題と対応

### ■ 利用環境の充実

- ・人材不足への対応やシームレス化による利便性向上に向けて交通系ICカードの普及を進めていく必要がある。

- ・鉄道と鉄道、鉄道とバス等の乗り継ぎの円滑化のために、デジタルサイネージ等による案内整備を進めていく必要がある。

#### ■ 利用機会の提供

- ・運転免許自主返納高齢者への支援方策として、ICOCA やバス半額定期券等の配布も検討してはどうか。
- ・いきいきサロンは、免許を持たない方の参加も多く、特に働きかけるべき対象と考える。社会福祉協議会と協力して、乗り方を教室などのイベントがあるとよい。
- ・1日フリー乗車券は、コミュニティバス車内でのPR強化や、駅で購入できるようになると利用が増えるのではないか。
- ・コミュニティバスは限られた人が利用しており、利用者からのPRが効果的であると思われるので、機会を市が設けるのがよいのでは。
- ・コミュニティバスの時刻表は便利であるので、住民だけでなく来訪者向けにも情報の提供・周知した方がよいのではないか。

#### ■ 観光との連携

- ・当尾地域は駅からは距離があるので、バスがうまく連携できればPRしやすくなり、市と一緒に勉強しながらキャンペーンや商品づくり等の可能性がある。(JR)
- ・奈良市との連携により観光利用の拡大につながる。また、奈良市や和束町は外国人が多いので、上手く取り込む施策も必要。

以 上